産業や生活再建支援

被災地を歩く

被災した自治体の財政的な負担を小さくするために、災害復旧の段階では、国が財政的な支援を行う仕組みが整っている。そのため道路などインフラの復旧事業は一気に進められる。一方で、地域産業や個人の生活の再建・復興に関する、復興期の支援活動は被災自治体が担っており、その資金として復興基金の仕組みが活用されている。さまざまな事業メニューによって、被災地の復興を支えている復興基金について紹介する。

活用される復興基金

長期的にきめ細かく

変化するニーズにも対応

噴火や地震などによる大規模災害では、住宅や学校、農地、工場や商店など、生活や地域の基盤が失われる。これらが被災前の水準に戻らなければ、新たな一歩は踏み出せない。しかし日本には個人や地域の復興を支援する制度は確立されておらず、道路や上下水道などのインフラ復旧は行政機関が行うが、住宅などの再建、地域コミュニティーや産業の再生は住民自身が行う（自助努力）という考え方が原則となっていた。

ここに長崎県が一石を投じた。雲仙普賢岳の噴火災害からの復興支援を目的に「雲仙岳災害対策基金」を設立したのだ。この基金は、被災ではなく、住宅再建や生業再開といった復興への立ち上がりを支援する、という特徴を持っていた。基金を設立し、その運用益で復興などのインフラ復旧は行政初の仕組みが誕生した。

1995年の阪神・淡路大震災では、長崎を参考に、被災直後から復興基金の創設を検討、国と協議を進め、4月には運用財産5800億円（後に8800億円に増額）の「阪神・淡路大震災復興基金」がスタートした。

基金の仕組みは次の通りだ。

①金融機関が兵庫県、神戸市に5800億円を貸し付ける

②県、市が基金の運用財団に、全額無利子で貸し付ける

③金融機関が、県と市に対する債権を、運用財団から5800億円で譲渡する。これによって、県・市が金融機関に支払う利子全額を運用財団が受け取り、運用益として支援事業に充てる

④県・市が支払う利子の95%を国が地方交付税で助成する

基金のための財団創設、県債を活用した資金調達、地方交付税による国のバックアップという仕組みが確立され、中越大震災、中越沖地震、能登半島地震での復興基金創設へとつながっていった。

復興基金の特色として次の4点が挙げられる。

まず「行政施策の補完性」だ。個人の住宅や財産にかかわる可能性のある支援策など、既存の支援策では難しい分野の対応や、既存施策をより有効に機能させる事業連携が可能になる。

次に「支援の持続性」。復興には時間がかかり、被災地の支援ニーズも変化する。5年あるいは10年という中長期の仕組みがあることは、継続的かつニーズに応じた支援が可能となる。安定的な支援の点でも有効だ。

3点目は「支援の機動性」。状況によって、当初想定しなかった新たな支援や事業が求められる。それに弾力的に対応していくことが可能となっている。実際に支援事業（メニュー）も、時間の経過とともに変化している。

4点目は「自立支援」だ。復興基金が目指すのは、被災者の自立支援であり、被災地の再生である。補償ではなく、立ち上がるための資金として、有効に活用していくことが期待されている。

中越大震災復興基金では、多様なニーズに応えて、現在では阪神・淡路を上回る10分野136事業を展開している。生活と産業関連の事業メニューが多く、きめ細かな支援を行っていることが分かる。

一方で、事業が多く、また年々追加されるので「どの事業を利用すればいいのかよく分からない」という声がある。また「本来、自治体が自主財源で行うべき事業を、基金を使って実施しているのでは」と、疑問視される事業もあるようだ。実は、阪神・淡路大震災復興基金でも、同様の指摘がされており、復興基金をめぐる大きな課題となっている。

設立から5年を経過した中越大震災復興基金も、折り返し点を迎えて、その成果の確認や、課題や改善すべき点の検証に取り組む時期を迎えている。基金の評価を長短あわせて整理・分析し、中越の教訓として発信することが必要だろう。それは復興基金というシステムを災害対策の一つとして確立させ、次世代や各地に継承していくために、新潟県が取り組むべき責務と言えるだろう。

増える事業メニュー

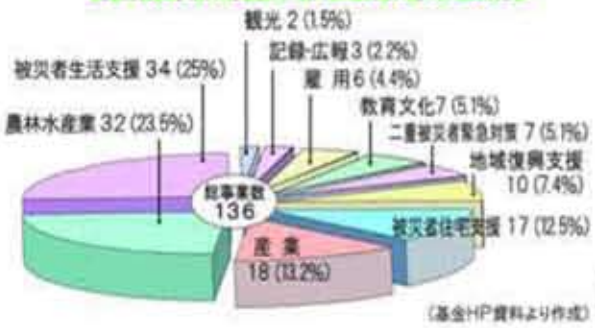
課題や成果 検証必要

災害復興基金の比較

基金名	被災時期と基金設立時期	基金の規模（円） 運用財産	基金の規模（円） 運用益	運用期間	支援事業数（延べ）
雲仙岳災害対策基金	（被災）91年 6月 （設立）91年 9月	1090億 （当初300億）	約274億 （10年間、実績）	5年間 （10年間に延長）	73事業
阪神・淡路大震災復興基金	（被災）95年 1月 （設立）95年 4月	8800億 （当初5800億）	約3543億 （10年間、実績）	10年間	113事業
中越大震災復興基金	（被災）04年10月 （設立）05年 3月	3000億	約600億 （10年間、見込み）	10年間	134事業※
中越沖地震復興基金	（被災）07年 7月 （設立）07年10月	1600億	約120億以上 （5年間、見込み）	5年間	71事業※
能登半島地震復興基金	（被災）07年 3月 （設立）07年 8月	800億	約34億 （5年間、見込み）	5年間	25事業※

※09年12月現在の事業（メニュー）数

中越大震災復興基金の分野別事業数



（基金HP資料より作成）

〈次号案内〉

次号第21号は3月1日（月）に発行します。

最終号として、これまで本紙にご登場いただいた方々の、未来に向けたメッセージを紹介します。

中越イベント情報

長岡市

■山古志　古志高原スキー場スキーカーニバル
【日時】2月28日（日）9時～17時
【会場】古志高原スキー場
【内容】リフト券割引、お楽しみ抽選会など
【問い合わせ】古志高原スキー場　0258(59)3500

■栃尾　栃堀樂守神社裸押合大祭
【日時】2月13日（土）19時～（準備は18時）
【会場】栃堀樂守神社
【内容】下帯一本にわらじ履きの男衆が、大ろうそくを持って本堂に流れ込み、「サンヨ（徳与）サンヨ」の掛け声とともに押し合い、福札を勇壮に奪い合う。参加者募集。下帯、わらじ足袋セット1000円
【問い合わせ】栃堀区事務所（ふるさと交流会館）　0258(52)3521

■おぐに雪まつり・雪上エンデューロ大会
【日時】2月28日（日）8時45分～
【会場】おぐに運動公園周辺、小国総合グラウンド、おぐに森林公園みんなの体育館
【内容】17回目を迎える雪上でのバイク耐久レース。屋台村、小国伝統の昔話、ごぜ唄が楽しめる祭り
【問い合わせ】小国支所産業課　0258(95)5906

小千谷市

■第34回おぢや風船一揆
【日時】2月27日（土）、28日（日）
【会場】西中会場（熱気球競技大会）、平沢町会場（熱気球試乗体験などイベント会場）
【内容】熱気球大会「2010日本海カップクロスカントリー選手権」をメーンに、熱気球と花火を使った幻想的なイベントや、熱気球試乗体験。
【問い合わせ】小千谷観光協会　0258(83)3512

■のんびり満喫おぢや～雪のおぢやと風船一揆＆酒蔵見学～
【日時】2月27日（土）
【会場】小千谷市内
【内容】第34回おぢや風船一揆に併せて、おぢやファンクラブ会員限定の見学ツアー。カラフルな熱気球の見学と、地元酒蔵の仕込み工程見学・試飲。昼食は、市内そば処「雪蔵の里」でそば会席。夜は熱気球のバーナーの光と花火の織りなす幻想的な世界「グローバルーンフェスティバル」を見学する。4000円（昼食代込み）。※天候により変更する場合あり。宿泊も受け付ける
【問い合わせ】おぢやファンクラブ事務局　0258(83)4800

■第9回ザ・かまくら
【日時】2月13日（土）12時20分～17時45分
【会場】真人住民センター周辺
【内容】12時からもち配布の参加券を300円で販売。小学生によるかまくら作り、真人里地町内での雪像コンテスト、そり遊び、もちつき大会、さいの神など。無料。
【問い合わせ】まっとマップ隊　0258(86)3108（隊長　羽鳥正一さん）

■真人温泉メゾン　大鍋まつり
【日時】2月28日（日）11時～15時
【会場】真人天然温泉ふれあいメゾン
【内容】前売り券は入浴と鍋1杯付きで600円。同温泉などで販売
【問い合わせ】真人天然温泉ふれあいメゾン　0258(86)2167（藤巻邦雄さん）

川口町

■えちごかわぐち雪洞火ぼたる祭
【日時】2月27日（土）12時～20時
【会場】川口町運動公園
【内容】白銀の大地が2万本のろうそくで幻想的に浮かび上がる。地元名産うまいもの屋台、雪上滑り台、雪上大花火など。一昨年から始まった「雪積み合戦」の参加者を募集。優勝賞金5万円
【問い合わせ】雪洞火ぼたる祭実行委員会事務局　0258(89)3113

十日町市

■大白倉のバイトウ
【日時】2月14日（日）
【会場】大白倉公民館前
【内容】雪原にケヤキとわらで小屋（バイトウ）を造り、その中で集落総出の酒盛りをする。最後に小屋に火をつけ、その炎で今年の作柄を占い、五穀豊穣を願う。大白倉集落伝統の小正月行事。※1月の予定が大雪により同日に延期
【問い合わせ】十日町市観光協会川西支部　025(768)4951

■～白い愛の祭典～第61回十日町雪まつり
【日時】2月19日（金）～21日（日）
【会場】十日町市城ヶ丘ピュアランド特設会場、十日町高校グラウンドほか市内各地
【内容】「雪を敵とせず、友としよう」という発想のもとに、昭和25年に全国に先駆けて始まった市民参加型・市民手づくりの雪まつり。雪上カーニバルのフィナーレを飾る花火は、一面の雪景色を幻想的な風景にする
【問い合わせ】十日町雪まつり実行委員会事務局　025(757)3100

柏崎市

■たぬキッズ　スノーキャンプ
【日時】2月6日（土）10時～7日（日）16時（1泊2日）
【会場】柏崎・夢の森公園、鵜川地区など
【内容】スノーシュー（西洋かんじき）での散歩、タイヤチューブでのそりすべりなど雪にまみれて遊ぶ2日間。テント泊。夜にはサプライズも。対象は小学3年生～中学生。8500円。定員20人
【問い合わせ】柏崎・夢の森公園管理事務所（エコハウス夢の森環境学校内）TEL:0257(23)5214　FAX:0257(23)5113　Eメール:info@yumenomori-park.jp

■高柳雪まつり「Ｙｏｕ・悠・遊」
【日時】2月20日（土）17時～21時、21日（日）10時～15時
【会場】高柳中学校グラウンド・野球場
【内容】雪上打ち上げ花火で始まるイベント。50人参加のもちつき、遊びの広場、高柳の味を楽しむじょんのびのれん街、ステージショーなど。近隣には駐車場がないため、じょんのび村からのシャトルバス利用を
【問い合わせ】柏崎市高柳町事務所地域振興課　0257(41)2241

魚沼市

■雪中花水祝い
【日時】2月11日（木・祝）11時ごろ～
【会場】八幡宮境内（魚沼市堀之内2427）
【内容】子宝、子どもの成長を願って、前年に結婚された新婚に頭から神水（冷水）をあびせる奇祭。八幡宮のお使いのハトをかたどった「ハト飾り」などの販売も
【問い合わせ】魚沼市観光協会　025(792)7300

■小出スキーカーニバル
【日時】2月13日（土）11時～
【会場】小出スキー場
【内容】売店や模擬店が並ぶスキー場内で、たいまつ滑降や雪上イベント
【問い合わせ】小出スキー場　025(792)5320

■2010小出雪まつり「第22回小出国際雪合戦大会」
【日時】2月14日（日）8時45分～
【会場】小出郷文化会館前雪のコロシアム
【内容】勝敗だけでなく、コスチュームやパフォーマンスも審査対象となる雪合戦。会場では雪遊びゾーンも作られ、売店やもちつき大会なども行われ、見るだけでも楽しめる
【問い合わせ】小出雪まつり実行委員会　025(792)9754

■絵本の家雪まつり
【日時】2月20日（土）14時～18時ごろ
【会場】絵本の家周辺（魚沼市須原5192-1）
【内容】雪遊び。4才以上400円
【問い合わせ】絵本の家「ゆきぼうし」025(797)2330

■ＳＵＨＡＲＡスノーカーニバル2010
【日時】2月27日（土）10時～21時45分ごろ、28日（日）10時～14時ごろ
【会場】須原スキー場
【内容】プロスノーボーダーによるジャンプパフォーマンスや、大たいまつ滑降、花火の打ち上げなど
【問い合わせ】須原スキー場　025(797)2059

■今泉雪灯りまつり
【日時】2月28日（日）18時～
【会場】今泉公民館周辺
【内容】会場では雪像を作り、地区内の道路脇を雪灯籠（とうろう）がともる
【問い合わせ】魚沼市観光協会　025(792)7300

■守門神社　宮原押合大祭
【日時】3月1日（月）18時30分～
【会場】宮原・守門神社（魚沼市須原1617-1）
【内容】守門神社の押し合いは、たるの中の木札を押し合いながら奪い合う。無病息災、五穀豊穣を祈願し、境内で行われる福もちまきは一般参加も可能
【問い合わせ】魚沼市観光協会　025(792)7300

南魚沼市

■南魚沼市雪まつり
【日時】2月13日（土）、14日（日）
【会場】雪まつり特設会場（六日町小学校脇）
【内容】雪のステージで上杉家の陣太鼓「御実城太鼓」をはじめ数多くの郷土芸能が繰り広げられる
【問い合わせ】南魚沼市雪まつり実行委員　025(772)7171

■第21回　歩くスキーフェスティバル
【日時】2月14日（日）10時スタート
【会場】五日町クロスカントリーコース
【内容】小さな子供から大人まで多彩な種目で歩くスキーを楽しむ
【問い合わせ】歩くスキーフェスティバル実行委員会　025(773)6700

■ひな雪見かざり
【日時】2月20日（土）～4月3日（土）、9時30分～16時
【会場】塩沢・牧之通り
【内容】江戸時代から平成までのひな人形や塩沢織布で作った木目込みひなどを約50軒で展示。無料。※展観の一部は3月22日（月・振休）まで
【問い合わせ】塩沢商工会　025(782)1206

■しおざわ雪踏まつり
【日時】2月20日（土）13時～21時
【会場】塩沢・鈴木牧之記念館とその周辺
【内容】「北越雪譜」の著者・鈴木牧之をしのぶ雪と炎の祭典。護摩供養の大きな炎と600本のろうそくが織りなす幻想的で荘厳なまつり
【問い合わせ】塩沢商工会　025(782)1206

「社団法人　中越防災安全推進機構　復興デザインセンター」のサイトに、Ｗｅｂ版「新潟　防災ジャーナル」が公開されています。
このサイトは、中越地震・中越沖地震からの復興に取り組む皆さんの情報発信の場として、コミュニケーションの場として活用いただけるよう運営しています。
ホームページアドレス　http://www.fukkou-design.jp/
※イベントは日程などが変更になることがあります。お出掛け前に、各項末尾の問い合わせ先にご確認ください。